

## 広島県総合計画審議会第4回小委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年10月17日(木) 午後4時00分から6時00分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号  
広島県庁北館2階 第2会議室及びweb
- 3 出席委員 伊藤委員長、石原委員(web)、上野由紀子委員、金澤委員、木下委員、  
佐渡委員、日高委員、本多委員
- 4 議 題 施策領域別フォローアップ
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当  
電話:(082)513-2396(ダイヤルイン)

### 6 会議の内容(議事要旨)

#### 【農林水産業】

(委員)

- ・ スマート農業の実証を進めていく上で、農業者の平均年齢70歳を超えている状況から、ICTの導入に対して抵抗のある農業者が多い。農業者に理解してもらうためには、農業者と行政との間に立って、わかりやすく説明できる人材が必要ではないか。
- ・ 農業者に対して、自分が作りたいから作るという視点だけではなく、顧客ニーズは何かを知ってもらい、ビジネスの視点を持って、経営について理解してもらうことが必要である。
- ・ 学生の人口が減って、他産業に農林水産業が人材確保で負けているなかで、農業が若い人に刺さるような環境を作っていくことを進めながら、衣食住の「食」がなくなると大変なことになるという理解してもらうことや、泥臭い部分のある農業をどうやってキラキラしたものに見せていくかも必要になってくる。
- ・ なぜ比婆牛だけ取り上げられるのか、他の委員会でも聞かれるが、比婆牛はGI(地理的表示保護制度)を取得しており、地域産地として盛り上げていこうとしている。極端な差別化ではないと思っている。畜産に関しては、生産者が5割減少しており、今後、広島牛乳やお肉が食べられなくなる可能性があり、そういった危機感を持って、次の戦略を考えていかないとはいけない。牛を育てるには365日休みのない作業なので、背景にあるのは、利益であって、1人でするギリギリの数があって、家業的環境で行われていることが多く、そういった環境を企業的に変えていくか、家業であっても、事業承継などで新たな魅力を生んで利益率を高めていくのかなど、今後考えていくというのが大きな課題になってくる。
- ・ 農業者が、広島県のアンバサダーとして、この人が農業をやっているからやってみよう、となるような環境を作っていくことも必要ではないか。中山間地域でもって農業をされていると情報も偏ってくるので、インターネットだけがすべてではなく、リアルとインターネットを組み合わせ、中山間地域の人達も考えていかないとはいけない。広島県は様々な農産物、海産物があり、街単位、もしくは、街よりもっと小さい単位で何かしらブランディングしていくこと、ある程度大きなかたちでまとまっていくことに取り組むことも重要だと思っている。

(委員)

- ・ 役割分担してスマート農業は若い人に頼むなど、協力し合ってやっていけるような、先になるかもしれないが、若い人がAIを使って、農業が泥臭いだけではなくて、機械化されるなど、農業が魅力的な産業となってほしい。広島県の方向性は良いと思っていて、大規模経営などにより、収入があると農業が魅力的になっていくと思う。若い人はインターネットで直接売って、農家にお金が直接入ってくる。農家の収入を確保していくことが重要だと思う。
- ・ 食料自給率が低い、広島県は下のほうだと思うが、ウクライナの影響で、大豆、小麦にも影響があると思うが、輸入に頼ることを減らす方向性も考えていけると良いのではないか。小麦に関して、オーガニックの取組を進めているようなことは伺っているが、大豆や小麦に関しての記載がなかったため言及したところである。

(委員)

- ・ ブランディングは、それを作れば経営が成り立つようになることが重要だと思う。比婆牛が一番認証が難しい、なので比婆牛を作ったら儲かるようになってほしい、というのは私の思いである。比婆牛の頭数が少ないので難しいとは思いますが、家族的経営から企業経営にするにはどうすれば良いのか。

(委員)

- ・ 畜産農家がまとまれば、企業経営体として事業提携が可能になってくるが、例えば、学校と学校が統合するとなると摺合せに時間がかかるように、昔からのやり方を変えることを嫌がる傾向があると思っている。やめていくところを吸収していくというほうがスムーズにいきやすいのではないか。
- ・ 小麦のオーガニックは菌が発生するなど、技術的にとても難しい。純国産の小麦を使ってラーメンを作ろうとしたら、1杯3~4千円くらいはしてしまうのではないか。
- ・ 補助金を出すという考え方もあるが、儲からなくても良いと考えられてしまうと悪い影響がある。本末転倒にならないようにする必要がある。

(委員)

- ・ フードバトンでは、新たな事業を生み出し、どう経営を行っていくか、どう目標を作ってやっていくのかを、コンサルを入れて一緒になって取り組んでいる。事業化について、農家が勉強していかないといけない。広島県によるセミナー等も実施されているが、農家がもうちょっと変わるためには、若い人を入れて、受け皿をどうしていくか、次のステージを考えていかないといけない。各地域のリーダーを育てていく必要がある。

(委員)

- ・ 企業経営体にしていくことは重要であると感じる。それは、機械化や、農業従事者の休暇取得においても重要である。環境としての美しさも、同時に追求すると良いと思う。若い世代にも農業に入ってきてもらうには、例えば、ものづくりの現場では、ものづくりには関心はあるが、油と泥にまみれながら毎日過ごすのは嫌だという思いが若い世代にはある。ものづくりの企業でも物理的に美しくすることで、より高度な人材を雇用することに成功したという事例もあるので、農業の世界でも挑戦できたら良いと思っている。
- ・ 地元食物の種を保存する取組はあるのか。

(事務局)

- ・ 県としてのジーンバンクの取組は終了したが、農業研究機構における一部の種についての管理を進めているところ。

(委員長)

- ・ 成果指標について、広島和牛の経営体数と肥育頭数をみると、増えるのは良いことであるが、経営体数が増えると1経営体当たりの広島和牛の頭数が減っていくことになる。どちらが良いのかわからないが、損益分岐点が高いと思うので、ある程度規模が大きいほうが望ましいと思う。高齢化に伴い、人口が減っていくので、担い手を作るのは重要であると思うが、たくさん作るべきかどうかは考える必要がある。松坂牛もそうであるが、生産コントロールをしているように感じる。ヨーロッパの一流ブランドは、キープ・マーケット・ハングリーという考え方のもと、供給管理や生産管理をして、売り手の販売額を調べたり、コピー商品があったら取り締まったりしている。同じように広島和牛、比婆牛に関しても、たくさん作るよりも、一定に抑えて、例えば、ヨーロッパや中東のお金持ちに食べてもらえるように、大量生産・大量販売ではなく、質の高いものを手間暇かけて作っていくような、マーケティングも考えていく必要があるのではないかと。

(委員)

- ・ 優秀な血統である比婆牛を、広島に行っても食べたいと思う以上にしっかり売り込んでいただきたい。

## 【観光】

(委員)

- ・ 県の施策としては連泊してもらうことだと思うが、夜のイベントがないと、夜泊してもらえないので、例えば、スポーツ観戦やコト消費で何かを体験してもらう必要がある。海と山が近いので、海の体験、山の体験をしてもらうことや、スタジアムやアリーナを活用したイベントなど、これらが起爆剤となると町おこしにつながるので、そういった施策があると良いのではないかと。私が比婆牛を推している理由も、県外の人に来た際に、お好み焼きとカキを食べて終わらないように、山の幸、海の幸が多いので、高級レストランで比婆牛を食べてもらい、夜も広島で過ごしてもらいたいと思っている。農林水産業も中山間地域も全部ひっくるめて、コト消費につなげていけると思っている。ホテルとタイアップすることもできるので、観光が一番横串を通しやすいと思っている。
- ・ カミハチキテルとは県はどのような関わり方をしているのか。

(事務局)

- ・ 都市圏魅力づくり推進課が関わっている。
- ・ 大々的にやったほうが良い。住んでいる人が楽しんでいると来る人も楽しくなる。(上野委員)

(委員)

- ・ リピーターという観点から、広島は世界的に知名度が高く、海外からの友人も必ず広島に来てくれるが、次にまた来るかという点、原爆ドームと宮島で終わってしまっているのが現状である。また来たいと思ってもらえるように、いかに広域の観光に力を入れていくのか。尾三地域など特色があって魅力的である。
- ・ 海外への発信も、多言語対応されており、観光連盟を中心にされていると思うが、小さなエリアについても海外の方へおもてなし対応ができるとより良いのではないかと。観光人材の育成に力を入れていくべきではないかと。ストレスフリーの観光として、アンケートなどを活用して、何に困っているのかを分析する必要がある。もし日本語がわからないと想定したときに、(現状の広島だと、)不安だと感じる部分もある。Wi-Fi、キャッシュレス、多言語、これまで取り組んでいると思うが、さらに取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・ 観光は、本当に大事だと思っている。海外からの観光資源を取り込んでいくかは重要な課題である。
- ・ 課題に「観光関連事業者だけではなく幅広い事業者が観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けていくことができる、自立的・継続的な観光産業を確立することの重要性が高まっている。」とあるが、具体的に何をすることなのかかわからない。
- ・ 連泊してもらい、広島に何度も来てもらうためには、地域の人々の温かみや人間の素晴らしさを感じる必要がある。その際に、重要なのが、英語や中国語、スペイン語など語学ができることが大事であり、中小企業のビジネスパーソンよりも、観光客の相手をするホテル、旅行会社、交通はもとより、レストランの人たちが片言でも良いので、外国人観光客とわかる言葉でコミュニケーションが取れることが大事である。外国人観光客をおもてなしするホスピタリティ産業の方々への語学研修に力を入れて取り組んでも良いのではないかと。
- ・ 海外のお金持ちは、一泊100万円以上するようなホテルで宿泊したり、家族5人でご飯食べ

て70万円するレストランで食事をするのが普通であるような、私たちが想像できないくらいのお金がある人たちが世の中には存在する。この人たちに、超最高級のおもてなしをするところが、数ヶ所、宿泊施設としては1か所でも良いかもしれないが、行って楽しめるようなレジヤナーなど、超高級路線に取り組んでいく必要があるのではないか。金持ち業界の方々のロコミはネットワークがあるようなので、常に金持ちの方しか来ないような動線を考える柔軟性も必要だと思う。

(委員)

- ・ 広島は泊まる場所やバリエーションが少ない。ヒルトンの誘致など、高級路線として、外国人観光客でお金持ちが見込まれる施設の増強も重要であるが、広島の魅力は、都市部だけでなく、自然に恵まれているなどの環境の素晴らしさであり、場合によっては、海外では進んでいる、Airbnb（エアビーアンドビー）のような泊まれる環境をやっぱり強化することが、非常に重要であると、利用者目線で感じる。
- ・ 観光、平和関連のガイドは、ボランティア制度があると思うが、言語能力やガイドに関する知識を有した人材をボランティアで頼るのは限界がある。宿泊施設の拡充、外国語や観光ガイドができる人材の強化など、観光資産を磨き込むには金が必要になってくる。1つ1つの施設で何かをやっていくのは限界があり、既存の税収入だけでは、観光開発には限界がある。観光開発を本格的にやっていき地域住民が受益者になり、もっと観光に携わりたいという人を増やして、ガイドや宿泊業者を増やしていく、こうした好循環を目指していかないといけないと思う。観光客からしっかりお金をもらう、そういう財源確保の仕組みを県が旗を振ってやっていく必要があるのではないか。入場料の最適化や入島税など、徐々に始まっていると思うが、海外の観光地を見ても、金額が上がっても観光客が減ることはないと思う。しっかりと観光施設が収入を得て、観光資源が磨かれる、好循環を県が描いていく必要があるのではないか。
- ・ 観光関連の人材育成、観光ビジネスに関わるプロフェッショナルは、民間企業等にもいるが、そこを束ねる県の、専門人材の確保、それはローテーションのある県職員だけでは難しいかもしれないが、ローテーションのあり方にメスを入れるのか、それが難しければ、特別職など、中長期的に、観光を引っ張っていけるような人材を任命し、本腰入れて取り組む、それだけの価値があるテーマだと思っている。

(委員長)

- ・ 文化財が商業的な利用をしながら維持するという事例もあるので、考えておく必要があると思う。

(委員)

- ・ インバウンドについて、他県に比べて中国人は少なく、中東や東アジアが多いようであるが、観光に携わる人的資源を作ることについて、多言語全てに対応できるAIやシステムをまず作っておいて、人は、別のサービスができるような環境を作った方が良いと思う。

(委員)

- ・ 観光を広島の産業の柱にしていくことは1つの決断であると思っている。地域活性化のために観光を活用したいと思う学生が増えてきているとは感じる。一方で、オーバーツーリズムの懸念も、メディアを騒がすようになって、学生の関心が高まっている。地元の方々と連携しな

がら、観光プランを立てるプログラムを行っている学生も、地元の方々の生活が脅かされるような結果になるのではないかという懸念を常に抱えながらプロジェクトをまわしているという印象を受ける。生活と観光というバランスは検証しながら、マネジメントする必要があるテーマだと感じる。

- ・ 観光客に再び来てもらうには、おもてなしが大事だと言われるが、非常に難しい時代に入ってきていると感じる。先ほどの意見であった、機械に任せるところは機械に任せる、人でないところでは人が対応する、おもてなしをしていくには、広くアピールしながら、意識的に県民がおもてなしに動いていくようにならないと難しい。以前、広島県でおもてなし宣言の取組があったが、しばらく経って、今それが実践できているかという点、できていない。1、2年頑張ったけど、まわりから働きかけがあるわけではないため、だんだん人々の意識から離れていく。おもてなしは文化だと、お互いが声をかけあわないと難しいのではないかと。また、AIに任せるという意見にはとても共感するが、15年以上前の広島のと今を比べてみて、大きく変わったと感じるところは、観光がスマートフォンですべて解決しまい、観光客と地元のコミュニケーションをとる場面が極端に少なくなっているところである。15年前であれば地図をもって道に迷っている方がいれば、何かお手伝いしましょうかという声かけのチャンスがつかれ、そこでコミュニケーションが生まれて親和性が生まれるという循環があったが、今は声をかけても、大丈夫ですと言われる。そこを乗り越えるのは難しい。広島に来るとみんなが声をかけてくれるとならないと、ゲストとの関係性が築けないので、積極的なアプローチが必要となってくる。

(委員)

- ・ 自律的継続的な観光産業について、中山間地域に観光客に来てもらうための活動として、宮島と原爆ドームがセットになって、さらに中山間地域に来てもらうにはハードルがある。昨年、宮島で午前中を過ごし、午後広島駅に行くまでに二、三時間時間があるので、修学旅行生を地域で受け入れて欲しいという依頼があった。茨城県からの修学旅行生であったが、工場見学に行く人たちと、自分たちのお店でワークショップする形と、農業体験する人たちに分けて対応したが、地域の方も来てくれた方たちも満足度の高いプロジェクトになった。海外の観光客で同じようにできるかどうかかわからないが、常に宮島プラスアルファとか、原爆ドームプラスアルファで、1～2時間でも地域の人と交流する時間があると全然違うと思うのでそういうのが当たり前前の観光になると良いと思う。そのために農業、林業、漁業などの1次産業が観光のコト消費になるのではないかと。広島には島もあって、海もあって、すべての産業がそろっていると思うので、そういうところでコト消費と、観光とセットでできたら良いと思う。

(委員長)

- ・ 2023年の統計(「訪日外国人消費動向調査」)であるが、1人当たりの単価を見ると、宿泊費が岡山県、山口県と比べて数千円低く、飲食費の単価も低くなっている。岡山県、山口県では買い物代が広島の2.5倍から4.6倍くらいの単価である。広島はアジア系が少ないが、中国、韓国の方も増えている。そういう人たちに使ってもらおうとすればやはり食と夜が重要である。食については従来の大量生産型にとらわれているのではないかと。農林水産業も日本酒などのお土産にしても希少性のあるようなもの、小さくても高級なものを用意することも必要ではないか。そのほか夜間動物園も考えられる。神楽も人気がある。神楽については狂言師や歌舞伎役者に演出してもらうなど、新しい神楽で世界から人を呼ぶような仕組みも考えられる。

(事務局)

- ・ 観光連盟が主体となり観光プロダクトの開発に取り組んでいる。観光事業者だけでなく、幅広い視点で違う分野の方とも連携しながら、進めていくという考え方で、県内に魅力的な観光プロダクトを各地に作り、県内への誘客を図っている。

(委員)

- ・ 目標は観光消費額や観光客の満足度となっているが、そこに、観光事業者だけでなく幅広い事業者が観光に携わる必要があるのかどうかがよくわからない。そこが本当に課題なのかがわからない。
- ・ 総観光客数が増えてないという反省がある中で、幅広い事業者が観光に携わるという関係性がわからない。最終的に観光客数が増えるのか、観光消費額が増えるのかについて、幅広い事業者の方に参加してもらっただけでは達成できないと思う。それが課題であり、解決策であると言われると、関連性がわからない。
- ・ 観光関連事業者の人手不足に新たな課題があることに、何か打ち手があるのか。

(事務局)

- ・ 観光事業者の方の負担軽減のため、キャッシュレス化などの支援を行っている。
- ・ 財源ということで、現在、宿泊税の議論をしているが、観光業界に求められることなど、ヒアリングをしているところで、その中で人手不足についても議論、検討しているところである。

(委員長)

- ・ 2018年に中国経済連合会が、ムスリムとビーガン用の中国地方のレストランの一覧を作成していたが、今こそ重要で、来た人が自由に見ることができ利用しやすくするなど、ビーガンは日本でも人気があると思う。

## 【スポーツ・文化】

### (委員)

- ・ 文化に関して、音楽や演奏会を聞きに行こうと思うと、時間の余裕とお金の余裕が必要であり、所得を増大させる施策が成功しないと、文化に親しむということは生まれない。文化的な催しがたくさんあることだけではなくて、県民がそれに親しむ余裕のある暮らしを実現することが欠かせない。単独で議論するのではなく、所得を上げて、一段暮らしを豊かなものにするというような施策が必要ではないか。
- ・ スポーツに関して、サッカースタジアムが広島市の中心にできて盛り上がる環境にあるが、例えば、ボールを作っているモルテンなど、スポーツに欠かせない製品、商品を産んでいる企業が広島にあることも宣伝材料になるので広く発信した方が良い。広島には実はスポーツを支えていてなくてはならないプロダクトを生んでいる会社があるということも情報発信していくべきではないか。

### (委員)

- ・ スポーツについて、生活の豊かさとの兼ね合いという意見には賛成である。広島は綺麗な川がある。サップは広島らしく、観光ともつなげやすく、宮島の鳥居もくぐれるたりするので、観光資源としても生活の豊かさのPRにもなるので、目玉になるような、スポーツのキーワードあっても良いのではないか。
- ・ 目玉になるスポーツのキーワードとして、サンフレッチェが強いが、教育の分野でスポーツをやるなら広島に住む。これは転入にもつながってくるのではないか。見る方のスポーツだけでなく、やる方もそことつなげて、盛り上げることで、広島に住みたい人を増やすということにもつながるのではないか。サッカーやりたくて県外の学校に進学するといったことにならないように。スポーツ観戦と教育とを結びつけることで、転入の増加、転出の防止につながるのではないか。
- ・ 神楽に関して、重要な文化ということで育てていこうとするのであれば、ハードルを下げて一般の人が親しめるようにすることも必要ではないか。

### (委員)

- ・ 高校生が神楽を学んだり、気軽にできて、それが県民に広がると良いのではないか。せっかくいい文化が広島にもあるので。
- ・ 教育に関連して、幼稚園や小学生だと民間の水泳教室等にお金がある家庭は行けるが、中学、高校になると部活に入る。それが嫌な子はあまり親しまなくなってしまう。地域で指導員を発掘するシステムを作って、学校と連携して地域でサッカーや色んなスポーツができ、それが教員の働き方改革に繋がるように、国もそのように進めようとしていると思うので、システムを作って行って、地域移行できると良いのではないか。海外では部活ではなく、地域が行っていて、お金がかからず、気軽に行けるので、そういったシステムが広島にできると良い。

### (委員)

- ・ 夜のイベントで神楽をやるというのも1つある。教育にスポーツを取り入れる話があったが、1つ1つの小学校のクラスが少なくなったので、1つの小学校で、サッカーも野球もどちらもやるということはできなくなっている。こっちの学区では野球、こっちの学区ではサッカーというように分担されていて、そうすると学区外に子供を連れていく、そうすると親の負担が増

えるので難しい。地域だけでの完結は難しく、少子化の問題だと感じる。

(委員長)

- ・ 確かに神楽はお社中と言われ、神社と結びついているが、外の人が入るところもある。

(委員)

- ・ 神社の氏子で形成されており、その地域の単位として形成されている神楽団では、少子化の影響を受けている。反対に、広島市内で神楽教室をされている神楽団もあり、そういった地域では比較的若い世代もいる。
- ・ 広島市では、サッカーと野球を分担している事例があるようだが、安芸高田市では、サンフレッチェのプロ選手が教えてくれたりという環境はある。広島駅周辺にバスケのアリーナができると、徒歩圏内でスポーツが楽しめる。みんながみんな好きかといわれるとそうではないかもしれないが、興味ある人がかかわって、盛り上げていくという逆輸入的な発想でも良いと思う。取組とか発信を上手く活用できれば良いのではないか。
- ・ ネクストひろしま神楽プロジェクトという一般社団法人があるが、広島県の神楽団をまとめて、海外で講演に行ったり、そういった活動されてる会社もあったりする。地域だけで活動している神楽団もあれば、外向けに活動している神楽団も多数ある。

(委員)

- ・ 神楽を育てていくことは良いことだと思うが、何のために取り組むのかは整理する必要がある。文化として必要なのか、観光資源として育てたいのか、県民の一体感を形成するために媒体としたいのか、それによって力の入れ方や方法は変わってくる。一体感をつくるためであれば、断わられないような、アクセスできるものがどんどん増えていけば良いと思う。それは、伝統的神楽団と別のものが出てくれば良くて、様々な自治体やNPOが応援していくということが良いと思う。阿波踊りは、道具も必要なく、ふらっと行ってできるが、神楽をしようと思うと、笛買ったり衣装買ったり準備が必要である。広く広めていくにはハードルが高いので、一体感のためということであれば、神楽も活用しつつ、もう少しカジュアルに関われるような文化の形成に同時に取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・ 資料では、神楽の取組と、KPIの「地域の歴史について知っている」と回答した県民の割合」を絡めて課題として書かれている。歴史を知ることに対して、神楽をとなると少し飛躍がある。地域の歴史というときに、郷土史を知っているということであれば、郷土史に触れるような取組がKPIとの関連でもっと前面に出てくる必要がある。地域の魅力づくりをしていきたいのであれば、もちろん神楽でも良いと思うので、歴史を知っている人が増えるということが、どういう目標なのか、これは整理が必要だと思う。

(事務局)

- ・ 地域の歴史そのものを神楽と直接結びつけるというよりは、イベントを通じて、文化財や地域の歴史を学んでいただいて、そこで知っている」と回答した県民の割合を高めていく取組を、環境県民局だけではなくて、教育委員会とも連携して行っている。神楽については、地域の歴史というアプローチというよりはやはり一般的な観光でのインパクトが強いので、おっしゃっていただいたように、今でも県民文化センターで毎週水曜日の夜講演している。最近、外国人観光客の方々も多く、多言語化、イヤホンをつけて聴けるようにしたり、字幕表示をするよ

うな取組など広島に来ていただいた、いろんな方、地元の方にも目に触れてもらえるようにしている。

(委員)

- そうであれば課題のところを示されたところが二本立てだと思う。歴史を知っているということは、おもてなしのところでも重要だと思っていて、諸外国の学生は郷土の歴史を良く知っている。国際交流した若い子たちが自分は語れなかったということで悔しさを感じたりもする。観光客が来られた際に、対話をして、広島を興味深いと思ってもらうためにも、郷土の歴史を知っている人を増やすことは、続けていくべきだと感じた。

(委員長)

- 国民スポーツ大会の見直しの機運が高まっているが、あっさりやめて、むしろパラリンピックの国体版、都道府県版にもっと力を入れればどうか。スポーツをしてる障害者の方々も参加機会が増えるのではいか。そろそろ衣替えしても良いと思う。
- ヨーロッパなどは階級社会なので、小学校でスポーツができる人はかなり限られている。アメリカでも、子供たちを送り迎えできるのはある程度余裕のある家庭に限られている。日本の良いところは、義務教育から色んなスポーツを体験できる、道具も施設もあるということで、魅力があった。その一方、働き方改革等の一環で、地域との連携が進んでいくと考えられる。そうすると、支えきれない学校区、地域もあると思うので、市町ではできないところは、県で何か補完してあげるという役割が必要ではないかという気がする。

## 【平和】

### (委員)

- ・ 自治体が平和の問題に関わるのは非常に珍しいことだと思う。そういう意味では、十分に発信をし、意味のある成果を上げている取組でないと、県民や議会の理解を得ていくことは難しいと思う。そろそろ、最終的なビジョンの目指す姿・目標と KPI をより整合性の高いものに育てていくタイミングだと思っている。取組にしてもある程度の期間を過ごしてきているので、精査をするタイミングに来ているのではないかと考えている。
- ・ その中で例えば最終的なビジョン指標が「国際的な合意形成」ということであれば、KPI の中で、NGO との連携取組数や情報発信の SNS 等のアクセスが増えてきているなどは、非常にビジョン指標と KPI の繋がりが強いのだろうと思うが、もう 1 つの柱となっている平和構築に関わる教育の部分をどう考えるかについて、整理が必要だと感じている。
- ・ また、「国際的な合意形成」につながるような直接的な人材育成に焦点を当てていくことが目指すことだと思う。しかしこの KPI で示してるものはもう少し広く、学んでいる人を増やしていくことは、これはこれでとても意味があることだと思うが、むしろ実際に合意形成を担っていくようなある種、エリート教育になっていくと思うが、具体的な行動を担う少数精鋭に資源を投入していくことも必要だと思う。
- ・ 広く理解を深めていきたいということであれば、今の KPI は意味もあるし、そうであればビジョン指標が二本立てでもいいのかもしいのかもしれないと思う。広く育成なのか、よりコアな担い手を育てていくのかは、精査が要るかなと思っている。

### (委員長)

- ・ コアな担い手というのは具体的には何か。

### (委員)

- ・ 例えば、核の問題について、日本で誰が担っていますか？と聞くと、おそらく 10 人中 9 人が ICAN のキャンペーンを担った人たちを想定する。彼らは何をしていたかという、もちろん署名活動もしているし、実際に各国の指導者や議員、役所などにも働きかけをしていく、または、同じような問題意識を持っている NGO の人たちと情報共有をして、キャンペーンをともに戦っていくということをしていく。そういったことを担える人。それは臆せず英語でしゃべることにもなるし、外国で学位を取るガッツのある人でないといけない。
- ・ ただもう少し広く、核について学びたいということであれば、そんなに英語ができなくてもいいかもしれないし、短期間だけそういうことに関わるということでも良い。でもキャリアをかけて、この国際的な問題に関わっていく人を育てようと思うと、今のまま何となくではできないのかなと思った。

### (委員)

- ・ 平和の領域に関しては、目指す姿とビジョン指標が非常に曖昧で、これをやるというのは県で何をする事なのか、県がどのように関わるのかが見えないと思った。
- ・ 私が常々思っているのは、やはり広島は、長崎もですが、ある意味、東京よりも知名度が高い名前だということで、これはもちろん悲しい歴史ではあるが、めちゃくちゃ重要な資産である。ここをテコに、我々が国際的なプレゼンスを高めていくというのがものすごく大事な戦略だと思っている。そこで、国連安保理の会議であったり、核に関する委員会であったり、そう

いうところに必ず広島県から誰かが行っているといったことを具体的に目指すべきだと思う。次世代の育成、後進の育成とは、そういうことではないのかと思う。

- ・ ただ何となく広島の歴史を知っている、核が落とされた広島のことを知っている、という若者が増えるということでは全く意味がなくて、具体的に核を無くす、核を根絶するみたいなことのためのオペレーションに、当事者であり、当事者の国であり、土地である私達のところから、政策実現に関わることができる人を送り出す・送り込むみたいなことをやれなくては、何の意味もないと思っている。
- ・ そのため、年に1回2回、学校の生徒がちょっと聞きに行くというのも大事だが、もっときちんとプロフェッショナル専門家を育てる教育を広島県こそがすべきだとずっと思っている。県立大なのか、叡啓大なのか分からないが、その平和に関する学部を私は創設すればいいと前々から思っており、これは広島にこそ作って意味がある学部だと思う。
- ・ 核だけでなく、平和に関わる国際的な課題はいっぱいあるため、そこに関連する知見は広島の大に行けば必ず勉強できるといったブランディングを目指すべきではないかと思っており、そこに関しては、広島という世界的に、ある意味有名な地名である我々の土地で、そのことを学べると。プロフェッショナルを育成して、国際的な平和に関する会合には必ず広島から誰かが参加しているという状態を目指すべきだと思う。
- ・ あるいは広島で学んだ人が、各国の代表としてそういう会議に参加すると、そういうようなオペレーションを目指すべきじゃないかと思っている。
- ・ 今のビジョン指標「核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成」は、結局できたかできなかったかも分からない、何とも言えないなと思っており、これで本当に良いのかと思う。スポーツにしても、農業にしても、製造業にしても、日本において広島だけが唯一ではないが、平和に関してだけは唯一無二の、広島の資産であり、ある意味のブランドであるため、もっと強化することに向けて力を入れていくべきと思う。
- ・ そして、世界のためにもものすごく意味があることだと思うため、そこに関しては何かそこに向かって尽力しますみたいな感じの目標設定でないと、ほとんど意味がないのかなと思う。(今のビジョンでは)広島県が実際に、具体的に何をやったのか全く分からないなと思っている。
- ・ 被団協がノーベル平和賞を取ったが、広島県か広島市どちらかが近い将来、ノーベル平和賞を取るべきだと、取るような形で動けばいいのにとずっと思っている。市民や県民の話ではなく、プロフェッショナルとしての関わり方ということで、政策形成して欲しいと思っている。

(委員長)

- ・ やはり、コアな人材育成に絡んだご提案だろうと思う。これは、地域の大学でも大学院の共同プログラム、互換プログラムでようやく決まったところでしょうか。

(委員)

- ・ 鋭意準備中しているところであるが、少なくとも広島大学と市立大学の間では、広大の旧理学部跡地を町の拠点として、人材を育て上げていくという提言書を踏まえて、連携が既に合意をされているため、両大学が力を入れながら、平和教育をしていくとか、海外からの研究者を招くということは、これから進むだろうと思う。そういったところの情報が、今後の10年のプランで言及があってもいいのかなと思った。

(委員長)

- 具体的な人の育成や政策的な語りかけとかいったことが重要だと思うため、少し工夫が必要であると思う。

(委員)

- 広島の小学校の平和教育は他にはない世界観ですごく驚いた。自分の子供が広島市立の学校に通っており、当然そのあたりはものすごく進んだ教育があると思って期待をしていたが、正直、あまりそういうのは感じられないと思った。
- 例えば留学プログラムや、専門的な知識、もしくは県や市の代表として、海外で色々なことを学んで、帰ってくるとか、そういったことが教育現場でも強く推進されていて、そういった専門人材、意識を持った人材、若手人材が育っていくのを、私の勉強不足で知らないだけであれば大変恐縮であるが、もっともっと強烈にやっていいんじゃないかなという期待があったため、そこはすごくもったいない、残念だなと思ったところで、ぜひそういったところ政策にも取り込んでいただければと思う。
- 県立ではもっと頑張っておられるのかもしれないが、その辺りも全体像があれば、こういったところに組み込まれてきて、県や市の取組として、何か応援されていく、そういったグランドデザインが目指す姿や、取組と課題というところにももっと言及されていると良いなと感じた。

## 【交流・連携基盤】

(委員)

- ・ 広島空港への交通アクセスは、高速道路が通行止めになったり、雪でリムジンバスが動かなくなることもあるなど、利便性が悪い。立地を考えると仕方ないところもあるが、空港の周辺を発展させ、人流を増やすことでアクセスの利便性の向上にもつながるのではないかと。

(委員)

- ・ 空港の利便性が悪いのは本当にそのとおりに思っているが、今年の7月からレンタカー乗り場が空港直結になり、非常に利便性が高くなった。
- ・ 広島こそ空港と各地を結ぶUberのような、いわゆるライドシェア型の交通網などの整備を試みたらどうか。ライドシェアの解禁を特区的に広島空港から各地へ解禁するという含めて考えて、広島空港の利便性を高めることに取り組んではどうか。
- ・ 広島空港を実際に利用して感じるのだが、夜の便に乗ろうと思って広島空港に来て、商業施設が開いていない。店員の方のワークライフバランスをどうするのかという問題もあるが、商業施設を飛行機の利用者が利用しやすいものとする必要があるのではないかと。
- ・ 港に関しては、広島は瀬戸内海の内側なので、大きな荷物を運ぶ貨物船などが着くことは難しいと思う。1つは、広島よりも、神戸や大阪のほうが良いからだと思う。もう1つは、人の足としての船に可能性があると思っていて、宮島から宇品などの航路を使ってみると、意外と船の方が早かったりするし、海外でもスイスとフランスの間のレマン湖など、日常生活の中で海上交通が使われている例もある。貨物輸送だけでなく、人々が移動するための水上交通の充実を図る必要があるのではないかと。

(事務局)

- ・ 広島港では大水深の岸壁を設けるなど施設整備を行っている。神戸港には劣るが中四国では一番大きな港である。

(委員長)

- ・ Uberは、タクシー会社が介在して使い勝手が悪いと、特に中山間地域では白タクを解禁するような社会実験としての取組を進めてはどうか。

(委員長)

- ・ 次回はこれまでの小委員会のとりまとめを行うこととしている。
- ・ これまでの議論の中で言い残したこと、また、各領域を通じて横断的な議論などどうか。

(委員)

- ・ 特に観光に関わることであるが、世代別のニーズに応えるというマーケティング視点が必要である。世界的な外国人のインフルエンサーで、日本に住んで日本のことを世界中に発信し、ファンが何百万人もいる方の事例を紹介する。この方は、日本の色んな地域から世界に向けて発信してほしいと依頼があり、陶芸体験やお茶、神社で能が見られるなどが多いそうだが、その方のフォロワーは、皆、若く、20代、30代の男性であったりする。その人達は、焼き物にも陶芸にも能にも興味がない。例えば、サイクリングやサップやサーフィンなど、アクティブに様々な国で活動したいと思っている人たちに対しては意味がないことである。外から人々を

呼ぶときに、若い人に来てもらうにはどうすれば良いのか、シニアに来てもらうにはどうすれば良いのかという世代別の視点が必要である。それぐらいきめ細やかにやらないと、誰にも刺さるコンテンツで、万人に向けて発信していると、効果がものすごく小さくなるのではないかと。

(委員)

- ・ 農業者と行政の中間の部分の構築していく必要がある。理解するまで時間がかかることを、うまく時短できるような、時間がかかっても教えられるような環境をつくることで、より広く深く進んでいくのではないかと。そういったことを中心に、人を増やしていく、農業者人口を増やしていくことが必要になってくる。

(委員)

- ・ 今回、現行ビジョンの中間見直しということで、どの程度変更できるのかどこまで踏み込んでいいのか、あまり変えないほうがいいのか、という疑問がある。また、今のビジョンは一つ一つの内容は本当にいいと思うが、どうしても行政目線というのを感じる。県民にとってはどういう暮らし向きになるのかというところが、あまりにも難し過ぎて分からないのではないかと。行政がこうやりたいという形ではなく、もう少し県民に分かりやすく、一緒にやっていきたいと思ってもらえるような整理も必要ではないかと。

(委員)

どんな生活がより豊かで快適な生活なのかが見える化されて、描かれることが重要である。県が何をしようとしていて、個人や企業に対してどういうことを期待するのか、誰が何をすると、何が手に入るのか、そこがうまく伝わるような表現ができると良いのではないかと。これまでの小委員会や今回のスポーツ・文化の領域など通じて、最終的に働き方改革というのが基盤になるように感じた。

(委員)

- ・ 広島ならではの豊かな暮らし、全国的にも自慢できるレベルだと思うので、そこを中核に、ビジョンの磨きこみに取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・ 広島で暮らすこと、仕事をするのがわかりやすくイメージでき、このビジョンをみて、広島で挑戦したいとなれば良いのではないかと。

(委員)

- ・ 行政にはこれで終わりという解がなく、1つの目標を置いたとしても、それがすべてではない。住んでいる人が住んでいるところが大好きで、一緒に取り組んでいくことで、目標変わるかもしれないが、その動きのなかで、県が1つ目標を示して、県民がついていって、より良くなるのではないかと考えている。そこに愛はあるのか。愛を持って取り組んでいきたい。

(委員長)

- ・ 県は、市町が自立できるよう側面支援の役割を担っているが、人口減少のスピードが速く、今後、県には、新しい広域調整的な役割が求められるのではないかと。1つは人材について、広

域化をしても足りない部分、特に技術的な人材確保ができなくなる。もう1つは、居住誘導区域について、市町の役割で進めていくことは問題ないが、一方の地域では厳しく、もう一方の地域では緩やかになるなど、整合性が取れないところも、人や立地で状況は変わってくるが、県として少し広い視点から調整することも必要になってくるのではないか。

## 7 会議の資料名一覧

資料1 これまでの主な取組と成果（抜粋版）

参考資料 これまでの主な取組と成果